



## GTF グリーンチャレンジデー2019in 新宿御苑の実施報告



2019年10月5日（土）、6日（日）の2日間、新宿御苑に於いて「GTF グリーンチャレンジデー2019」が開催されました。ESD-Jは、昨年に引き続き環境省環境教育推進室のブース出展のお手伝いをしました。今年のテーマも昨年度と同様、エシカル消費を推進することに焦点を当て「私が変わると、世界も変わる！」としました。私たちが買い物をする行動が、野生生物と関係している事を説明し、消費行動に変化を起すことを目的としました。

新宿御苑の芝生エリアは、週末をゆっくり過ごすために訪れる親子連れの来場者が多いため、まずは子供の関心を引くために、様々な生き物を作るクラフトやぬりえを提供しました。

子供達が熱心に工作している時間を使って、親を対象にフリップを用いて、私たちの日々の消費行動が引き金となって、野生生物の生息が危ぶまれていることを説明しました。

ブース運営は、昨年に引き続き、ガールスカウト、こどもエコクラブ、大学生（成蹊学園）の皆さんにお手伝い頂きました。本イベントに繰り返し参加してくれている子は、マクラメや折り紙など、大人よりもクラフト作成に熟達しており、子ども同士で教えあう微笑ましい姿が見られました。展示物は、昨年同様、一般社団法人 JEAN、全国地球温暖化防止活動推進センター(JCCCA)より、視覚的にイ

ンパクトの強い写真パネルやタペストリーをお借りしました。ゆるキャラ着ぐるみの「はぐくん」は2日間で合計4回登場しました。丸いフォルムと満面の笑みの「はぐくん」は、相変わらず子ども達に大人気で、練り歩くだけで写真撮影の嵐となりました。

また、今回はじめて、「プラ太郎・プラ子の旅」という紙芝居を上演しました。展示やフリップによる説明は、子供には難しいので、3分程度の短いストーリーで、適正処理されずに漂着ゴミになったプラスチック製品の問題を取り扱いました。（当団体HPで公開中です。）

クラフトに参加した方、展示をご覧いただいた方、合計132名にアンケートにご協力いただきました。Q1：参加者の年齢層は、大人（38%）、小学生未満（36%）、小学生（20%）で、中学・高校生は殆ど居ませんでした。Q2：印象に残った楽しかった活動は、クラフトがダントツの8割を占めました。Q3：普段の生活において、食品を買うときに重視する点は？という質問に対しては、値段（55%）、安全性（55%）、味（46%）が多く、環境配慮は（14%）と少なかったです。Q4：クラフトや展示を見た後で、買い物する時の視点が変わったか？という質問に対しては、7割を超える人が「はい」と答え、消費行動に変化を促すことができました。



### INDEX

GTF グリーンチャレンジデー2019in 新宿御苑の実施報告 … P1  
 地域当理事の活動紹介とSDGsステークホルダー会議の報告 … P3

地域当理事の活動紹介 … P2  
 企業インタビュー … P4



北海道地方 『SDGs を取り入れたまちづくりを』

北海道担当理事 池田 誠

北海道では、札幌市がSDGsの視点を取り入れて、全国5番目のフェアトレードタウンになりました。また、林業の盛んな下川町は町政全体にSDGsを取り入れ、パウダースノーに魅せられた外国人が多く集まるニセコ町でもSDGsについて積極的に取り組んでいます。北海道全体でもSDGsへの関心は高まっており、雄大な自然を抱え、またアイヌ民族の人権、そして農業や観光産業でも経済をSDGsの視点を取り入れようとしています。そんな中で、一般財団法人北海道国際交流センターでも函館地域全体を盛り上げようとSDGsの勉強会を開きました。一回目は北海道新聞の記者でSDGsの取り組みを紹介している関口記者の目から見た地域のSDGs、二回目は、児童労働や若者のチャレンジから考えたSDGsをNGO団体ACEの白木事務局長に。そして三回目は、環境やパートナーシップの視点からEPO北海道の大崎さんに講演をお願いしました。そうした中で、SDGsへの関心は高まると同時に、幅広い層へ広がり、自分たちでもSDGsを広げてゆこうという機運が高まりました。

その思いを実現したのが、2019年9月28、29日に函館蔦屋書店で行った「SDGs～誰ひとり取り残さない、ライフスタイルの提案」です。函館の中でも多くの人が集まる場として利用されているが、SDGsを知らない人たちにも、この活動を伝えてゆきたいという意味ではかなりの効果が期待されました。23団体が集まり、自分たちが

思うSDGsについてワークショップや展示、販売といった形で発信しました。捨てないパン屋さん、家に緑をと苔の作品を披露する団体、昨年の胆振東部地震でも地域にキャンドルを配った団体や、障が



函館蔦屋書店のSDGsイベントで賑わうブース



SDGsシンガーソングライター

い者雇用を進める企業など様々な出展があり、SDGsの幅の広さを感じることができました。もちろん、温暖化防止対策を感じてもらう取り組みや、フードロスや、フードバンクといった取り組みもあり、今までにはない大きな集まりとして、地域に大いに発信することができました。世界の情勢をしっかり把握して、その課題を見つめ、自分たちの地域に適応してゆくことは、大いに必要になります。今後は、自治体や企業、大学とも連携をして活動してゆき、更に多くの、多様性を受け入れるSDGsタウンを作ってゆきたいものです。そういう意味でも、今回のイベントに満足せず、あらゆる形で、「人を巻き込む活動」を続けてゆきたいです。



関東地方 『ESDの鍵は、出会い・つながり・動くこと』

関東担当理事 鳥屋尾 健

関東地方では、現在全国93の地域ESD活動推進拠点の内、約4分の1を占める22の拠点があります。学校(大学・専門学校・高等学校)、NPO法人、企業、水族館、財団法人、ジオパーク推進協議会とその担い手も多様です。ESDの取り組みの広がりには「分野を超えた多様な人の出会いとつながり」そして「実際に共に動いてみることを通してのそれぞれの変化」が欠かせません。例えば、山梨県では2016年度より、山梨環境教育ミーティングが、地域に根差した暮らし・教育・環境活動をしている方をつなぐ場としてはじまりました。県レベルでの出会いの場は、適度な時間・距離の関係性から、たくさんの「今度、うちの活動の場にきてください」「それなら〇〇さんを紹介するよ」がうまれています。海のない県での動きとしては珍しい、山梨マイクロプラスチック削減プロジェクトの立ち上げの契機にもなりました。「共に動く」ことは、ある特定の団体や個人のみで動くよりも、時間とエネルギーがかかります。それは、共に動く時に、関わる人それぞれが、異なる思いや文化と出会い、相互に刺激しあい、学び合う中での変化が必要だからです。同時に、そこに「学んでいる個々人が変化するプロセスやその変化がどのように起こるか」に注目するESDの肝がそこにあります。社会的な課題に「共に動く」ことは、時間もエネルギーもかかるのですが、そこに時間とエネルギーをかける中にこそ、次の時代への変化が

生れてくるように感じます。

山梨県では、こどもと自然を軸にした動き、食と貧困を軸にした動き、環境と自然を軸にした動き、国際と共生を軸にした動き等がつながりあい、重なりあいながら動いています。30年以上前に始まった業界や地域の枠を超えて、持続可能な社会づくりに挑戦しつづける人が全国から集う「清里ミーティング」。そこで培われた文化が山梨県内でも広がってきています。動けば動くほど「こんなすごい動きが、こんなに近くにあったか」と思うような出会いがあります。多くの困難な課題を超えていかなければいけない時代の中で、出会い・つながり・動くことに希望の光を感じます。★日本環境教育フォーラム/清里ミーティングの詳細はこちら

<http://www.jeef.or.jp/activities/kiyosato/>



エコロジー×エネルギーをテーマに自然の中で学ぶ



やまなし環境教育ミーティングの様子



## 近畿地方 『ユースによる SDGs の取り組み』

近畿担当理事 下村 委津子

近畿地方では ESD の実践者、研究者など多様な人々が、それぞれの地域で足元から ESD 活動を行っています。近畿といっても、各地域は非常に個性豊かで独自の文化や歴史、背景があり、アプローチの仕方も三者三様です。その中から、京都市内の私立高校で行われている取り組みをご紹介します。

高校 2 年生の生徒たちのクラスでは、ESD をベースに、SDGs と自分たちの暮らしや学校生活などが、身近な問題と深くつながっていることを捉え、まさしく「Think Globally, Act Locally」を実践しています。課題を達成するために、問題を深く掘り下げ、自分たちで何をどのように取り組みたいのかプランをまとめ実践する授業です。アイデアだけにとどまるのではなく、実際に取り組み、その結果をきちんと整理し、問題の解決にコミットできたのか、どこの誰にどんな影響を与え、何がどのようによくなったのかを自分たちで評価します。当然短期間ではできないため、丸 1 年をかけて取り組むプログラムです。

まず、最初に SDGs の背景にある、世界で起きている問題と課題をしっかりと学び、そこに自分たちの暮らしがどのように関わっているのかもグループディスカッションで深めます。その後、関心のあるテーマごとに集まり、17 の目標を見据えながら自分たちが何を

どのように解決したいのか話し合い、どんな 2030 年になっていきたいのか将来像も描きます。単にいいことをするのではなく、自分たちが与えているマイナスの影響も理解した上で、そのマイナス要素を減らすとともに、プラスになることを考えるのです。特にグループディスカッションでは、よく考え、互いの意見をしっかりと聞き、17 の目標が様々に絡み合い、つながっていることを含め、深い議論が続けられます。その結果、授業の主体者は生徒となり、生徒が自らで授業を作っています。答えを導きだします。

このようなプロセスを経験した生徒たちは、1 年の間で驚くほどの変化を見せてくれます。1 年間に何度か学校内の先生や外部の NPO、保護者に向けても活動報告の機会を設定します。厳しい質問が飛んでくることもあります。自分の言葉できちんと答えようとする姿勢は立派です。このような経験を通して成長した人が増えれば、2030 年を迎えた時には社会の課題にしっかりと向き合いコミットする逞しい若者たちが、希望ある未来を作り出しているのではないのでしょうか。

ノートルダム女学院中学高等学校 グローバル英語コース グローバルワークショップの活動



Fair for Smile 校内ワークショップ



ワンフェス コンプレゼン



### 「SDGs 実施指針」改定に向けたステークホルダー会議の報告

ESD-J 理事 鈴木 克徳

2019 年 9 月 6 日、国連大学本部において、SDGs 推進円卓会議の有志と国連大学サステナビリティ高等研究所の主催で、「取り組みを加速化し拡大する指針となるべき」という認識のもと、「『SDGs 実施指針』改定に向けたステークホルダー会議」が開催されました。

この会議は、年内に予定される SDGs 実施指針の改定に向け、様々なステークホルダーからの声を関係者へ届けようとの趣旨で開かれたものです。参加者は 200 名を数え、ESD-J から多数の理事および会員が参加しました。

会議は、開会式、第 1 部～第 3 部、閉会式の構成で行われました。第 1 部では、全体会と 5 つの分科会①市民、②企業、③資金、④地域、⑤研究・教育に分かれて「実施指針」の在り方を討議、結果報告、総括をしました。第 2 部は、第 1 部の結果を踏まえて「SDGs 推進のための政府の体制」と「レビュー・指標」の 2 つのテーマについて討議しました。SDGs 実施指針の改定に向けて、世界と日本の未来像、SDGs の政策や実施の在り方、各セクターの取り組み等、様々な観点から討議が行われました。

この会議の成果は、SDGs 円卓会議構成員有志によって提言書にまとめられ、9 月 9 日の「SDGs 推進円卓会議」（於：外務省）で塚田玉樹 外務省地球規模課題審議官に手交されました。提言書は、以下のウェブサイトから閲覧できます。

<http://bit.ly/2VZfTcu>

### 【今後の予定】

■ 12 月 20 日（金）-21 日（土）

「ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2019」を国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）にて開催いたします。

持続可能な社会の実現に向けて、分野横断的に協働・連携して ESD を広げ、深め、地域の諸課題の解決、教育の質の向上を図るための情報交換・意見交換の場です。

プログラム概要や参加申し込み、お問い合わせはこちら

⇒ <https://bit.ly/2N5J0H9>



ESD-Jの活動を2012年よりご支援くださっている株式会社モンベル様から『モンベルの7つのミッション』を中心に、多様な社会貢献活動についてお話しいただきました。



### ミッション1：自然環境保全意識の向上

モンベルはアウトドア用品の製造・販売が主事業の一つであり、『アウトドアのフィールド＝自然環境』を守る事と、事業の持続可能性が直結しています。日々、地球温暖化や自然災害に関するニュースを目にしますが、アウトドア活動を行うと自然環境の変化をダイレクトに体感します。そのため、より多くの人々が自然に触れる機会をもつ事で、自然環境保全への関心を高める事を目指しています。

### ミッション2：野外活動を通じて子供たちの生きる力を育む

都会の便利な生活に慣れ、自然の中で活かされていることを忘れていた子ども達に野外体験の機会を提供し、身体能力、精神力、コミュニケーション力、リスクヘッジの思考力などを鍛える活動を行っています。自然から切り離された生活は、人間にとって“不自然”であり、自然の中でこそ学べる事が沢山あります。

### ミッション3：健康寿命の増進

アウトドア・アクティビティは、子どもから高齢者まで、年齢に応じて継続でき、生涯を通じて心身を健康に保ち、楽しむことが出来る活動です。そして、親から子へ、その子が親になり、自分の子どもに伝えるという世代を超えた教育的な側面があります。

### ミッション4：自然災害への対応力

自然は恵みをもたらすと同時に、災いをもたらすこともあります。アウトドア・アクティビティからは、災害などのいざという時のメンタル、テクニカル面の備えを身に付けることができます。不便な生活を強いられるのではなく、キャンプなど遊びの一部として楽しみながら経験できると、災害時に活きます。

### ミッション5：エコツーリズムを通じた地域経済活性化

日本の自然は、日本人が自覚しているより以上に魅力的です。そのため自然を守りながら、美しさを伝えるエコツーリズムを普及しています。環境に負荷をかけない方法（徒歩、自転車）で地域を巡り、文化や歴史を学び、自然・地元の人々との交流を楽しみます。外部の人々の訪問で地方の地域経済が活性化し、地元の人々が農村部、自然環境の美しさを認識するという意識の変化が生まれてきました。

### ミッション6：一次産業（農林水産業）への支援

モンベルの店舗や、フレンドエリアというアウトドア拠点は全国各地に展開しており、多くのアウトドアのフィールドは、第一次産業が主幹産業です。第一次産業を担う人々との関わりから作業に適した衣服の開発を初め、様々なニーズが見えてきました。そして、各地の特産品を“フレンドマーケット”（オンラインショップ）において販売し、都市部に住む消費者が生産者と繋がり、第一次産業を支える仕組みを作り上げました。

### ミッション7：高齢者・障害者のバリアフリー実現

1991年の障害者カヌー教室に端を発した障害を持つ人たちが生き生きと暮らせるよう、様々な団体と連携しながら多角的なバリアフリー社会の実現を目指す活動を展開しています。モンベルの強みは、94万人を超えるモンベルクラブ会員やフレンドエリア等の地域の声をダイレクトに商品開発や社会貢献活動に反映し、細やかなニーズに素早く応えることが出来る点です。これからもサステナブルな社会を実現するために自然環境を守り、物づくり、地域の活性化に取り組んでいきます。詳細は、こちらをご覧ください。 <https://about.montbell.jp/social/>



美しい山をバックに



子供たちの野外活動の様子



阪神 アウトドア義援隊



JAPAN ECO TRACK



障害者カヌー教室

■編集後記： ESD-Jは、現在会員用メーリングリストの移行手続きを行っています。登録しているアドレスの変更や追加の希望ご不明な点等がございましたら、事務局までご連絡ください。よろしくお願いたします。

### 特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 5-38-5 日能研ビル 201 T:03-5834-2061 F:03-5834-2062  
◎会員募集中：正会員（10,000円）、準会員（3,000円）詳しくはWEBサイトをご覧ください◎

